

# 「いつもの総会」を7月4日に開催



## 2026年度 静中静高関東同窓会総会

〈幹事:103期 副幹事:104期〉

日 時:2026年7月4日 (土)

開場 12:30

総会・講演・懇親会 13:00-16:30

会 場:日本プレスセンター10F ※アクセス➡



会 費:5,000円 ※当日、受付にて現金でお支払いください。

(大学生無料。121期以降の方は3,000円)

講 演:103期 山本 義徳 氏

### 『人生100年時代を迎えて

～筋肉と栄養で手に入れる最高の健康～』



日本ボテビル界を代表するレジェンド。2005年、日本人初のヘビー級での全米チャンピオン。第一線引退後、メジャーリーガーやJリーガー、総合格闘家など多くのトップアスリートを指導するコーチとしても活躍。

また、登録者77万人超のYouTubeチャンネル「VALX 山本義徳 筋トレ大学」を主宰、トレーニング、健康づくりの秘訣をわかりやすく紹介。

現在、豊富な知識と経験をもとに、サプリメントの開発・監修や、30冊以上の著書を通じて、年齢を問わず“元気に生きる力”の大切さを表現。

### 参加申し込み

参加には事前申し込みが必要です。

右のQRコードを読み取り、申込フォームに必要事項を入力し送信してください。

QRコードの読み取りができない場合は、メールまたはFAXにて卒業期とお名前をお送りください。

・メール: shizukokanto@gmail.com

・FAX:03-5217-0301



静中静高関東同窓会にぜひご入会ください。

お集まりいただいた皆さんには「来てよかったな」と、少しでも思っていただけのように講演や懇親会における企画を皆で考えました。健康(筋肉・運動・栄養)をテーマに講演者をはじめ同期メンバーたちと検討を重ねましたので、より多くのお仲間をお誘いいただけると幸いです。そしてこれを機に、皆さんの健康維持増進が図られ、いつまでも「いつも」のように集まりますことを期待しております。

コロナ禍を乗り越え、昨年、設立50周年記念を迎えたあとの、いつもの時期と場所での「いつもの総会」を開催します。でも「いつも」のように集まることがどれだけありがたいことか、皆さんもよくご存じだと思います。せっかく回ってきた一生に一度の幹事期ですので、思い残すことのないよう早いうちから計画を立てて集まり、親睦を深めながら準備をして参りました。

103期 関東代表

日下 雄一郎

幹事期よりご挨拶

# 静中静高 関東同窓会 会報

静中静高関東同窓会  
会報 第101号  
2026年5月25日発行  
静中静高関東同窓会  
会報編集委員会



高 印

## 目次

2頁	講演者挨拶・山本義徳(103期)	3頁	4頁	総会議案	
5頁	異業種交流会	6頁	新春のついでに、卒18の会	原田健希(123期)	
7頁	卒26の会	谷川烈(115期)	8頁	私の冒険人生	松隈道雄(71期)
9頁	「本当のこと」と向き合う	林教子(102期)			
10頁	たかが同窓会、されど同窓会	第31回 浦田彰(71期)			
11頁	Sae Iwate 寺井良夫(92期)	江の島会・富坂修(82期)			
12頁	たまごつちみたいに言うなよ	高階準(128期)	岳南球友会		
松永啓(94期)	14頁	15頁	年会費拠出者一覧		

講演者挨拶

103期 山本 義徳

30代まではボディビルダーとして活動し、引退後はウエイトトレーニングや栄養摂取を指導するトレーナーとして指導にあたり、また書籍やSNSにおいて情報発信を続けております。これまでに出版した書籍は30冊を超え、YouTubeのチャンネル登録者数は80万人に届こうとしています。

令和になって人生100年時代をむかえ、健康への関心がこれまでになく高まっています。いっぽうで情報は錯綜し、玉石混交となつている状態です。医師に頼るのではなく、自身の健康リテラシーを高め、健康情報の取捨選択ができるようにならねばなりません。

ただ病気を予防するだけではなく、心身の衰えであるフレイル(虚弱)にならないこと。さらには「健康レベル」を高めることにより、いつまでも元気に活動していくこと。そのための具体的な方法について、本講演で解説していきます。

なにもしないと筋肉は40歳から1%ずつ減っていきます。しかし「筋肉は裏切らない」という言葉のとおり、100歳になっても鍛えれば増えるのが筋肉です。最近では筋肉から分泌される「マイオカイン」が病気の予防につながるということがわかってきました。とはいえ運動だけでは逆効果。食生活が

間違っては、むしろ筋肉を削ってしまいます。運動は適切な栄養摂取と合わせて行うことが大事なのです。

講演のなかでは自分の体重を使った軽い運動や、椅子を利用した無理なく行えるエクササイズを紹介していきます。また生活習慣病や認知症などの対策ともなる食習慣、栄養摂取法、サプリメントの摂りかたなどについても、具体例をあげながら解説していきます。

私たちにとって、今日が人生で一番若い日です。さっそく「野筋」をはじめ、健康レベルを引き上げていきましょう。

本校記念事業の進捗状況

静中静高関東同窓会 会長

静中静高創立150周年実行委員会 副委員長

杉山 順一 (84期)

母校の創立150周年記念事業は、2028年11月11日が式典と決まり、改めて記念事業の具体的なロードマップがスタートしました。当初は4つの記念事業テーマ「体育館周辺の再開発」「国際化推進」「生徒の海外研修支援」「黒板の総取り換え」「校旗新調」

を中心準備を進めて参りましたが、県教育委員会で数年前から県立高校の再編事業の検討が始まり、これが定まるまで県立高の老朽化対策予算は年頭から凍結

され、また黒板も約4年後に始まる文科省の「教科書デジタル化計画」で教室内の授業環境がどう変わるか予測が難しいことから、この2つテーマは一旦見合わせとし、生徒の海外研修支援と校旗新調を先に進める事となりました。

また現在、静岡県が準備を進めている県立高対象の「新型寄付制度」が早ければ今春スタートするよう、この制度を活用して募金活動を行う方針となりました。募金委・広報委・記念誌編集委はこれを機に、4回目となる校史および記念写真集の編集を進めます。

さらに今回の記念事業を象徴するキャッチコピーを在校生から募集中であり、近々纏まりますので楽しみにです。また美術文化委が校内に点在する美術品や記念品類をどうまとめいくかを検討、式典全体のレイアウトを進めている式典委も、既に総会会場を決め、式典と懇親会のメニュー作りに入っています。

以上が今春時点での150周年記念事業全体の進捗状況ですが、今回の記念事業は「お祭り色」を薄め出来るだけ「For the school」「For the students」を軸に行事の組み立てを行ってまいります。ただ一方で県の行政サイドとも連携が必要な状況でもあり、静中静高同窓会は、母校やPTA、印高会などともしっかりと連携を取って進めてまいります。関東同窓会の皆様もこれから具体的にやっていく各記念事業テーマへの一層のご理解とご支援を是非お願い申し上げます。

今年度は、左記二議案を理事会より総会に上程します。

議案主旨

一 号議案 2025年度 事業報告・決算報告・監査報告

【事業報告】 102期幹事による第50回総会／講演／懇親会、そして異業種交流会、卒18の会・卒26の会、新春のつどいは、どれも同窓会ならではの対面での交流を行うとして予定どおり実施しました。また、イベントになかなか参加できない会員の方々への報告や読み物として充実した内容を目指した会報も年2回発行されました。

【決算報告概要】 異業種交流会と新春のつどいの会場を変更し、結果的に活動費のコスト削減になりましたが、年会費収入が見込みより大幅に減少し、予算を若干超えた繰越金の繰り入れとなりました。

【収入】 年会費(維持費)件数は、55件減少し、536件に留まりました。

【支出】 昨年は、関東同窓会創立50年の節目であり、記念品や総会会場の演出に9万円の予算を立てていましたが、関係各所のご協力もあり、必要最低限として予算内に収めることができました。

活動費について、これまで貸室で開催していた会員同士の交流会(異業種交流会、新春のつどい)の会場を、飲食店に変更して試行

しました。目先を変えたことにより参加者数も増え満足度も高く、リニューアルに成功しました。会議費について、年5回開催していた理事会は回数を減らし年4回に集約し、うち年2回(6月と12月)に行っていた対面+WEBのハイブリッド形式での開催も、現地参加者が少ないことから1回に抑えました。

【監査】 2026年4月8日、会計監査を実施しました。

二 号議案 2026年度 事業計画・予算計画

【事業計画】 昨年度と同じ活動を継続します。新春のつどいは、各期幹事同士が交流できる場として維持しながら参加対象を会員全体に拡大し、立食形式の飲食会とします。

【予算計画概要】 総会や新春のつどいは参加者増を見込んでいます。繰越金を繰り入れて対面での交流に予算を充て、一方で会議をオールWEBで行いメリハリをつけます。

【収入】 年会費件数は、実現可能な目標値として570件を想定しました。全方位での声掛けを推進しますので、会員各位のご理解ご協力をお願いいたします。

【支出】 日本郵便より予告されていた会報の郵便代値上げは見送られ、料金据え置きとなりました。会議費削減、懇親関係の増額以外は前年並みとしました。

一号議案

2025 年度事業報告 自 2025/4/1～至 2026/3/31

- 1. 第 50 回静中静高関東同窓会総会開催（幹事 102 期）
  - (1) 日 時：2025 年 7 月 5 日（土）13 時
  - (2) 場 所：日本プレスセンター10F ホール
  - (3) 参 加 者：154 名
  - (4) 来 賓：（本校）織田敦校長、久保田好則課長 （本部）松村友吉同窓会長  
（支部）柴田尚関西支部会長、加藤政幸中部支部長  
（静高野球部後援会）河村卓利会長
  - (5) 会 長 挨 拶：杉山順一会長
  - (6) 来 賓 挨 拶：織田敦校長、松村友吉同窓会長
  - (7) 議 事：全議事が可決承認 一号議事 2024 年度事業報告・決算報告・監査報告  
二号議事 2025 年度事業計画・予算計画  
三号議事 役員改選
  - (8) 母校野球部紹介：河村卓利静高野球部後援会会長
  - (9) 講 演 会：講演者・沼田千晴氏（102 期） テーマ：「オール静岡で『おまち』を元気に！」
  - (10) 懇 親 会：日本プレスセンター10F ホール 総会終了後～16 時 30 分
  - (11) 50 周年企画：「関東同窓会報を紐解く」プレゼンター：佐藤友男氏（102 期）
- 2. 会 報 編 集 委 員 会：2 回（5 月・12 月）会報発行
- 3. 2025 年度 会 計 監 査：2026 年 4 月 8 日
- 4. 正副会長会（役員会）：5 回（WEB 会議）
- 5. 理 事 会：4 回（ハイブリッド会議 1 回、WEB 会議 3 回）
- 6. 新 春 の つ ど い：2026 年 2 月 7 日開催
- 7. 異 業 種 交 流 会：2 回開催 2025 年 6 月 6 日、2026 年 1 月 30 日
- 8. 卒 1 8 の 会：2025 年 11 月 15 日開催（123 期対象）
- 9. 卒 2 6 の 会：2026 年 2 月 7 日開催（115 期対象）
- 10. W E B 広 報 委 員 会：ホームページ更新・SNS 発信（随時）

決算報告

収入の部		円
科目	決算額	
年会費	1,607,000	
総会・新春のつどい	1,051,500	
広告料	380,000	
本部助成金	250,000	
利息等	2,227	
繰越金からの繰入れ	282,806	
計	3,573,533	

繰越金累計 4,744,449 円

財産目録

2026 年 3 月 31 日現在

1、現金	29,178 円
2、預貯金 みずほ銀行	797,743 円
ゆうちょ銀行	3,917,528 円
預貯金計	4,715,271 円
現金預貯金合計	4,744,449 円


支出の部		円
科目	決算額	
総会費	1,172,605	
会報発行費	1,421,847	
会議費	27,981	
活動費(新春のつどい等)	436,112	
交通費	58,960	
振込料	95,766	
通信費	96,112	
事務費	240,000	
雑費	4,150	
慶弔費	20,000	
繰越金への繰入れ	0	
計	3,573,533	


監査報告

静中静高関東同窓会  
会長 杉山順一殿

2025 年 4 月 1 日から 2026 年 3 月 31 日  
までの収支決算書及び財産目録、並びに  
関係書類、帳簿等を精査致しました結果、  
正確適正に処理されていることを認め  
ご報告致します。

2026 年 4 月 8 日  
静中静高関東同窓会

監事 松島 勤 (84 期) 

監事 中尾 安志 (96 期) 

## 二号議案

## 2026年度事業計画 自2026/4/1～至2027/3/31

1. 第51回静中静高関東同窓会総会開催（幹事103期）
  - (1) 日 時：2026年7月4日（土）13時
  - (2) 場 所：日本プレスセンター10F ホール
  - (3) 議 案：一号議案 2025年度事業報告・決算報告・監査報告  
二号議案 2026年度事業計画・予算計画
  - (4) 講演会：講演者・山本義徳氏（103期）  
テーマ：「人生100年時代を迎えて ～筋肉と栄養で手に入れる最高の健康～」
  - (5) 懇親会：日本プレスセンター10F ホール 総会終了後～16時30分
2. 会報編集委員会：年2回（5月・12月）会報発行
3. 2026年度会計監査：2027年4月
4. 正副会長会（役員会）：5回（すべてWEB）
5. 理 事 会：4回（すべてWEB）
6. 新春のつどい：1回開催予定
7. 異業種交流会：2026年6月、2027年1月開催予定（年2回）
8. 卒 1 8 の 会：2026年度開催予定（124期対象）
9. 卒 2 6 の 会：2026年度開催予定（116期対象）
10. WEB広報委員会：ホームページ更新・SNS発信（随時）

## 予算計画

収入の部 円			
科目	2025年度実績	予算	備考
年会費	1,607,000	1,710,000	570件目標
総会・新春のつどい	1,051,500	1,140,000	
広告料	380,000	370,000	広告枠1減
本部助成金	250,000	250,000	
利息等	2,227	0	
繰越金からの繰入れ	282,806	88,000	
計	3,573,533	3,558,000	

支出の部 円			
科目	2025年度実績	予算	備考
総会費	1,172,605	1,144,000	総会150名規模
会報発行費	1,421,847	1,400,000	部数減
会議費	27,981	0	オールWEBへ移行
活動費	436,112	485,000	新春のつどいなど
交通費	58,960	65,000	
振込料	95,766	103,000	年会費件数分を想定
通信費	96,112	87,000	
事務費	240,000	240,000	
雑費	4,150	4,000	
慶弔費	20,000	20,000	
予備費	0	10,000	
繰越金への繰入れ	0	0	
計	3,573,533	3,558,000	

繰越金	4,744,449	4,656,449
-----	-----------	-----------

業種・世代を超えた交流  
**異業種交流会**  
 次回、第38回は6月開催

1月30日(金)高田馬場の貸会議室にて、第37回異業種交流会が開催されました。今回は84期〜128期までの29名が参加しました。東工大(現東科大)理学部情報科学科を卒業後、博士(理学)課程を取得した107期・木本雅彦氏に、「ありすぎる「好き」を全部貫いてみた30年の足跡」と題し、30分間、スピーチをしていただきました。

ファーストスピーチ  
**「木本雅彦」の人物像**

UNIX技術者であり、小説家でもある木本氏の自己紹介は、その非凡な才能に圧倒されるものでした。



講演をしてくださった木本雅彦氏

高校2年、朝の4時までアセンブラでプログラムを書くパソコン少年。「ベーシックマガジン」

に投稿したプログラムが2回掲載され、プログラミングでお金を貰うという経験は後に本業としてソフトウェアエンジニアになつていくことに繋がります。また当時のバンドブームに対抗してシンセサイザーで作曲し、YAMAHAのコンテストに出場。それも後にボーカロイド(歌唱ソフトウェア)を使った楽曲発表をやる素地になったといえます。



初の試みとして高田馬場の貸会議室にてたっぷり2時間

そんな才能溢れる木本氏は、当時とはかく変人扱いされ、「好きでやっているから評価されなくてもいい」、「誰も褒めてくれない。評価されたい」という間をゆらゆらと動いていたといえます。

ヘルサンチマン⇨弱者が強者に対して抱く負の感情  
 強弱というものは時代により

変わります。自分が正しいと思うことを続けていけば、評価は後からついてくる。そう辿り着いた木本氏は、自分が楽しいと思うこと・やり方に没入することをやめませんでした。東日本大震災のあった二〇一一年、お子さんが誕生。人生観に変化があったかも知れないとのことでした。

時代は変わる。自分も変わる。でも好きなことをやり続ける。タンスは変わらない。むしろ、好きなことを限定せず沢山ある世界の中で、点と点が繋がった中間地点で新しい発想は生まれることもある。現在も、それを継続中とのことでした。

あなたならどう回答?  
 参加者がそれぞれスピーチ

最後に: 僕が答えられなかった問いについて

- 先日の、母校のキャリアデザインツアーに参加し、現役高校生とお話ししました
- そこで出た質問に僕はうまく答えられませんでした
- みなさんはどう答えますか?

「自分は、特にものすごく興味があるものや打ち込んでいるものがないけれど、進路選択をしないといけな。どうすればいいのでしょうか?」

木本氏のスピーチの最後に、参加者の皆さんへ投げ掛けがありました。これは、その後に続く参加者の活発なスピーチへの見事なアシストとなりました。活気ある異業種交流会でした。

ガッツに移動し懇親会

開始から2時間、参加者によるスピーチを終えて、歩いてすぐの「静岡の美味しいものガッツ」へ名札をつけたまま移動。静岡のソウルフードで店長・市川徳二氏が温かくお迎えしてくれました。



アットホームな雰囲気であり、いろいろな世代の方々卒業期を超え、情報交換をして、楽しく懇親できたようです。

第38回のご案内

日時: 6月19日(金) 18時半

場所: ワイム貸会議室 高田馬場

(参加申込み者に後日詳細案内)

ファーストスピーチ: 尾高泉氏(99期)、テーマ「SNS時代の情報とメディアと私たち」

一億総メディア化し生成AI活用も進むなか、社会はより民主的になるのか、分断が進むのか。私たちや次世代が健康で幸せになるための「メディアリテラシー」について一緒に考えましょう。

【尾高泉氏プロフィール】

一九八七年慶大法卒、日本新聞協会入職。事務局次長や日本新聞博物館館長を務め二〇二四年夏定年退職。現在、教育とメディアのコミュニティ・ラボ代表、日本NIE学会常任理事として、新聞社へのアドバイザーや教育界、自治体への出講・執筆等活動中。国家資格キャリアアコンサルタント。

異業種交流会の構成

- ① 18時半〜19時(30分) ファーストスピーチ
- ② 19時〜20時半(90分) 参加者自己紹介
- ③ 20時半〜22時 懇親会

◆ 参加のお申込みはメールで、期・氏名、そして懇親会への参加不参加をお知らせください。

shizukokanto@gmail.com

### 各期幹事を復活 新春のつどい

2月7日(土)、日本列島に大寒波が押し寄せ各地は大吹雪。関東にも朝から風花のように粉雪が舞いました。静岡で育った者にとっては、密かに雪景色に憧れ、どこかそわそわする一日の始まりでした。同時にこの日はミラノ・コルティナ2026冬季五輪開会式、そして衆院選を翌日に控え、一年を通じて記憶に残りやすい日となりました。



#### 【目先を変えて、銀座で開催】

各自多忙なスケジュールの中、各期幹事を中心に49名が銀座二丁目のレストラン「NOY」に参集しました。残念ながら急用で英国出張となった杉山順一会長に代わり、増井喜一郎副会長の乾杯音頭で、和やかな会が始まりました。

銀座の大通りに面したこのお店は、一等地にありながら、コース料理+飲み放題で5,500円というリーズナブルな料金設定。店内の雰囲気も大変よく、また今回、参加者数が貸切条件をクリアしたため、店内プロジェクトを使って校歌・道謡歌をいつものように合唱できました。



#### 【リニューアルの経緯】

昨年までは、会報やホームページ、SNSで会員全員を参加対象として、このイベントを告知していました。しかし、ゲストスピーカーをお呼びしながらも前々回50名、前回40名と参加数が思っていたより奮わず、貸室代との採算も取れなくなってきたことから、開催の是非について予算作成段階から課題ではありました。役員会/理事会を全面的にWEBに切り替えるなど利便性とコスト抑制を追求する一方で、対面の機会が減っている。同窓会と

いう組織ならではの特性を失わずに、この会を存続するには、どうしたらよいのか？

関東同窓会において、過去、特に50年前の結成当初から活躍していたいた欠かせぬ存在が、各期を代表する幹事の皆さんでした。「幹事会」をベースに全て運営されて来ましたが、数十年経てば同数の卒業期が当然増え、幅も広がりに人数も増え会議を遂行するのが徐々に難しくなりました。そこでその中から誕生した新しい役職が「理事」でした。現行の規約では、役員と理事(定員30名)が年4回の会議で意見交換をして運営推進をしています。

同時に、各期の幹事さん達との話合いの場や、大切な交流の機会が無くなってしまいました。2025年度の新体制発足後のコロナ禍も拍車をかけました。今ここで、復活すべきは各期幹事会ではないのか、という結論が出て、各期幹事の皆さんへ個別にご案内を送り、多くの方々が集まってくださり盛会が実現しました。



#### 【会えてよかった】

どなたも笑顔で「また会いましょう!」と散会できた会となったことは運営側としてこの上ない喜びです。

懐かしいお顔、名前は知っていたがこれまであまりお話できなかった方、初対面の方、80歳代から20歳代まで。多種多様な人生を歩まれている方同士の交流のプラットフォームとして次回へ繋げます。ご理解をよろしくお願いいたします。(副会長記)



### 卒18の会 久々の再会と 新たなつながり

123期 原田 健希

11月15日(土)、東京・八重洲にて123期の同窓会を開催しました。昨年、122期の同窓会の幹事を務められた野球部の先輩から関東同窓会をご紹介いただいたことをきっかけに、関東在住のメンバーへの声かけをスタート。あつという間に50名超のLINEグループが作成され、当日は、サッカー部、写真部、女子バレー部、吹奏楽部、バスケット部、マンドリン部、野球部、ラグビー部と、部活の垣根を越えた22名が集結しました。



■ 18年ぶりでも、一瞬であの頃

卒業から18年(卒6の会からは12年)。「久しぶりすぎて話題が続かなかつたらどうしよう」と当日まで密かに胃を痛めていましたが、蓋を開けてみれば完全に杞憂。当日は、近況報告から高校時代の思い出話、当時は言えなかつた裏話など話題が尽きず、笑い声の絶えない有意義な時間となりました。旧友との再会はもちろん、高校時代はほとんど話したことのない同級生と初めてじっくり語り合う姿も見られ、関東同窓生の輪がさらに広がるきっかけにもなったのではないかと思います。2次会まで勢いは止まらず、気づけば3次会、4次会に流れていくメンバーもいて、18年ぶりとは思えない盛り上がりとなりました。



今回、関東同窓会からの活動費は、参加費の一部に充当させていただきます。多くの仲間が関東

にもいることを改めて実感できたこと、そしてこのような機会を頂けたことに、関東同窓会の皆様へ心より感謝申し上げます。これを機に、年に1回程度は、定期的に親睦を深めていければと思います。



たが、静岡や、遠くはカナダから参加してくれたメンバーもいました。普段から東京で顔を合わせているメンバーもいれば、卒業以来久しぶりに再会する顔ぶれも混在していました。乾杯のグラスを合わせた瞬間、時間は高校時代へと巻き戻りました。

卒26の会  
雪の舞う恵比寿で  
旧交を温める

115期 谷川 烈

2月7日(土)、暦の上では春とはいえ、都内でも珍しく雪が舞い散る底冷えのする夜でした。しかし、会場となった東京・恵比寿の貸切イタリアンレストランに一歩足を踏み入れると、そこは外の寒さを忘れさせるほどの熱気に包まれています。

今回の関東同窓会に集まったのは、総勢20名。その多くは東京や神奈川県在住のメンバーでし

たが、静岡や、遠くはカナダから参加してくれたメンバーもいました。普段から東京で顔を合わせているメンバーもいれば、卒業以来久しぶりに再会する顔ぶれも混在していました。乾杯のグラスを合わせた瞬間、時間は高校時代へと巻き戻りました。



なかつた?(笑)と鋭いツッコミが入り、会場はドツツと笑いに包まれました。また、話題の一つとなったのが「入学前の春休みの宿題」のエピソードです。合格の喜びも束の間、配布された数学の問題集『スタンダード』。「まだ習ってもいない単元を、春休み中に自習してやってきなさい」という課題に、「あれには度肝を抜かれた」「入学前からさっそく出遅れた気分だった(笑)」と、当時の焦りを笑い話として共有できるのも同級生ならではの楽しさでした。

■ 緑る高校生活の思い出と「スタンダード」の衝撃

やはり一番の盛り上がりを見せたのは、当時の先生方や学校生活の思い出話です。「あの先生の授業は独特だった」「あの先生は不思議なキャラクターだったよ」「ね」といった話題から始まり、甘酸っぱい青春の記憶も。「当時、誰と誰が付き合っていた」という恋バナでは、「校内で堂々と付き合うのって、今思うと恥ずかしく

なかつた?(笑)と鋭いツッコミが入り、会場はドツツと笑いに包まれました。また、話題の一つとなったのが「入学前の春休みの宿題」のエピソードです。合格の喜びも束の間、配布された数学の問題集『スタンダード』。「まだ習ってもいない単元を、春休み中に自習してやってきなさい」という課題に、「あれには度肝を抜かれた」「入学前からさっそく出遅れた気分だった(笑)」と、当時の焦りを笑い話として共有できるのも同級生ならではの楽しさでした。



「あの人は今どうしてる?」と、今回参加できなかった友人の近況にも花が咲きましたが、会場に集まったメンバーの活躍ぶりも大変刺激的なものでした。海外を拠点に活躍する人をはじめ、弁護士、公認会計士、経営者、教師、そして大企業で重責を担うメンバーたち。それぞれのフィールド

■ 多彩なキャリアに刺激を受ける

「あの人は今どうしてる?」と、今回参加できなかった友人の近況にも花が咲きましたが、会場に集まったメンバーの活躍ぶりも大変刺激的なものでした。海外を拠点に活躍する人をはじめ、弁護士、公認会計士、経営者、教師、そして大企業で重責を担うメンバーたち。それぞれのフィールド

で社会を牽引している姿に、「自分も頑張ろう」と背筋が伸びる思いでした。

また、東京暮らしが長くなっても「やっぱりサッカーはエスパスを応援している」という声が多く聞かれたことも印象的でした。それぞれの場所でも戦いながらも、根底にある故郷への愛着は変わらないようです。

■ 深まる交流、続く絆

宴は大いに盛り上がり、多くのメンバーがそのまま2次会へ。「やっぱり同期はいいな」「定期的に集まるう」という声が多数上がり、その場で作成されたLINEグループでは、早くも次回の企画や「近々ゴルフに行こう」という話も出ています。

雪の降る寒い夜でしたが、115期の絆の強さと温かさを改めて確認できた、本当に熱い一夜となりました。今回参加できなかった皆様も、次回はぜひお会いしましょう!



### 新シリーズがスタート 【私の冒険人生】 第1回

71期 松隈 道雄

社会に出てまだ日が浅い頃だった。ある出来事がきっかけで、何事も、多少のリスクがあっても思い切って挑戦する方が絶対面白い、と思うようになった。私の冒険人生、特に定年後の冒険満載の人生がどのようなものだったか、順を追って紹介したい。

#### えーっ！フランスに留学！?

入社して7年目29歳の時だった。ひどいスランプになり、知人に打ち明けたところ、どうだ、気分転換にフランス留学の試験でも受けてみないか、と言われた。えーっ、フランス語なんて全然！と答えると、これは技術留学なので、重視されるのは会社でやっている仕事の内容だ、言葉の方はあまり心配しなくていい、と。

半信半疑だったが、スランプから逃れたい一心で試験を受けてみることにした。とはいえ、フランス語を全く知らないで受験するのはよくないと、小さな語学学校の夜学に通い、週1回、半年ちょっと勉強した。

翌年、年が明けて、フランス大使館から取り寄せた願書に、上役の承認(捺印)が要ると書いてあり青くなつた。課長に駄目と言わ

れたらどうしよう、と心配を胸に恐る恐る願うと、えーっ！フランス…!?!、と声を上げ、しばらく考えておられる様子だったが、去年仲人をしてやった可愛い部下の願いを無下に駄目、というのは可哀想だ、まあ英語で試験を受けるならともかく、フランス語なんてそんな甘くないぞ、とでも思われたのか、今回限り、ということと判を押して下さった。

2月に筆記試験と面接試験があり、翌月、大使館から合格したので心積もりをしておくようにと言われびっくり。課長に報告すると、ものの5分も経たないうちに本社の総務から電話があり、こんな大事なことで、総務に相談なく勝手にやるとは何事だ!、と。後日、個人の希望による留学願は、会社の規則で禁止されていたことを知った。そうした中で課長の捺印をいただけただけ、もう運がよかったとしか言いようがない。

ところが、喜んだのは東の間、その年5月になると、フランスでは大学紛争やゼネストがエスカレートし国中が混乱、もう留学生の受け入れどころではなくなっていました。周りの人は、ごまあ見ると言わんばかり。翌年3月には、後輩が主任になったのに、私は2年続けて置いてきぼり。もうすっかり落ち込んでしまった。

それから1年経ち、フランスのことを忘れかけていた頃、大使館

から連絡があった。フランス国内が落ち着いてきたので手続きを再開したいが、松隈さんの場合、留学を希望していたフランス国鉄が、今年は留学生を採らないと言ってきた。どこか別な留学先を探して欲しい、と。

どうしたらいいか途方に暮れていると、心配した知人が、フランスの事情に明るい人をお願いして、代わりの留学先を調べて下さった。しばらくして届いたリストを見ると、ほとんどが国立の研究所だった。そのリストを大使館に持って行くと、ではお宅の社長からこの宛先にレターを出してもらい、先方から受け入れOKの返事がきたら、それを持っていらっしゃい、と。

当時の社長は、後に経団連の会長になられたあの有名な土光敏夫さんだった。そこで、土光さんの名前で出すレターをフランス語で作り、会社の便箋にタイプし、本社の総務に社長のサインをいただけないかお願いした。すると、おい、マツクマ、社長が毎日どれだけ忙しいか分かっているのか、その忙しい社長にプライベートなお願いをするなんてとんでもないやつだ、と言われたが、洪々アポイントとはとって下さった。

当日総務の人と社長室に入っ て行くと、土光さんは目の前でサインして下さった。そして立ち上がる時、デスクの向うからこちらに歩いて来られ、私を見上げるよ

うにして「君は随分痩せているようだが身体は大丈夫か、しっかりやれよ」とおっしゃって、両手で私の肩をぼん、ぼんと叩いて下さった。もう、うれしくてうれしくて、涙が出そうだった。そのレターを会社の航空使用の封筒に入れて送ったところ、どの宛先からもOKという返事がきたとのこと。それをいただいて大使館の人に差し出すと、ご苦労様でした、ではこれで手続きを始めます、と。

憧れのフランスに1年、見るもの聞くものすべてが初めて、自由の身…もう、夢のようだった。帰国してからは、迷惑をかけた会社に償うべく一生懸命働いた。しかし定年になり、パートのおぼさん並みの給料しかもらえなくなつたので、思い切つて海外の鉄道コンサルタントの世界に飛び出し、リスク覚悟で様々な業務に挑戦した。そうした冒険の原点が、今回紹介したフランス留学だったことは間違いない。



フランス郵便切手(1968年)ルノワール作、婦人像、縦52mm×横41mm

世界中の酒を眺めてみても日本酒ほど造り方が繊細なものはない。その年の気象条件や酒米の作柄、仕込み水の硬軟、杜氏や蔵子の体調などのファクターが酒の出来具合を微妙に変えていく。鑑評会には、力のある蔵元が鑑評会用の酒を出してくる。一瞬の利き酒の競技に打ち勝つような切れ味のいい酒を特別に醸して置く。いうなれば、広告の世界だ。だが、各蔵元で圧倒的に生産量の多い普通酒のレベルで本当の力が試されるのだ。つまり地元で大半が消費されてしまうということだ。

今では廃線となった能登線に揺られて訪ねた石川県・珠洲にある櫻田酒造も心に残る蔵元だ。東京農大の小泉武夫先生の教え子である櫻田博克さんが両親、お嫁さん、家族四人で酒を醸す小さな蔵。二百石のおそらく全国でも最小の蔵の一つだろう。杜氏が急死し突然、継ぐことになった家業。穏やかなご両親、東京から嫁いできたお嫁さん、若い二人の辺境での酒造りの夢を肴に酒を酌み交わした。酒造りの情熱もさることながら、奥さんと編集するホームページを駆使した心温まる酒造りの記録などからは、お子さんの

### 脱サラ11年のモノローグ(下)

86期 成岡 和美

成長と合わせてほのぼのとした人情が伝わってくる。辺境にある小さな酒蔵の身の丈の情熱、そして土地に根ざしたゆとりさえ感じる。

焼酎も負けてはいない。鹿児島島の離島、甌島を訪ねた。目的は二つ。きびなごを直送していただいてる漁業組合を訪ねること、そして島に引き継がれる芋焼酎をたつた一人で醸し出す川畑克海さんを訪ねることだった。元漁師の川畑さんは、義父の後を継ぎ、島の宝である甕仕込みの焼酎を醸す。その隠し蔵に足を踏み入ると芋の甘くとろけるような香りが鼻腔にまわりついてきた。

土中には四十八個の甕が埋め込まれ焼酎の源がいきいきと弾けて発酵していた。麹室の温度を保つためにかつては立ったまま眠ったという。すべての工程で甕を使うため年間三万五千本しか生産できない。全量甕仕込みは鹿児島県内の蔵元百二社でも六社のみだそう。

こうして自分の足で蔵元を訪ねて入手したお酒には、背景にそれぞれ物語が存在する。杜氏にお聞きした話などを伝えながら飲むお酒は旨さが倍加する気がする。

開店以来二十ほどの蔵元を訪ねたが五つの蔵が慈しんだ長い歴史を閉めた。後継者がいない、将来的経営展望が開けない等、地方の小さな酒蔵はその土地の文化を守るために呻吟している。力のない蔵元は消える。だが、これまでに訪れた蔵に共通したこと

がある。蔵そのものや酒造りの道具、ときには荒々しい自然と造り手の間に濃密な家族感覚が存在するということだ。

自然を含むすべてに謙虚なのだろう。杜氏や蔵主の物静かな語り口からは、酒造りが風土や生活と融和してこころから生じる穏やかな矜持が沁みるように伝わってくる。「真実は静かに語られる」という言葉が浮かぶ。蔵元を訪ねた帰路、列車などに揺られながら、都会に住む少しばかりの幸福と大いなる不幸を想いつつ酒を飲んだものである。

「脱サラ11年のモノローグ」(上)は会報97号、(中)は会報98号に掲載しています。

### 「本当のこと」と向き合う

102期 林 教子

同窓会報に載せてもらえる日が来るなんて。高校生の私に教えてやりたい。私は、教員生活を経て、現在、文部科学省に勤務している。劣等生だったこともあり、卒業以来、同窓会幹事に当たるまで、静高のことはほぼ忘れていた。

高校時代、唯一、まあまあの成績だったのが「漢文」。授業中は、便覧のシルクロードや「満漢全席」の写真に目を奪われている時間の方が長かったのだが、性に合っていたらしく、大学では中文を専

攻し、指導教官の薦めで南京大學に留学した。1989年の「六四天安門事件」の翌年のことだった。国費留学生試験を受験して、さんざんな出来だったはずが、辞退者が続出したのだからか私にも順番がまわってきた。

南京大學の近くには「虐殺記念館」がある。留学中に大学の安排(中国語で手配の意)で一度だけ訪れた。いつも引率してくださる先生は、「外で待っているから」と入館されなかった。「先生は歴史の先生なのはどうして入らないのですか?」稚拙さゆえのストレートさで質問すると、「戦争に行つた人は本当のことは絶対に言わないからです。」とお答えになった。出口付近には千羽鶴が置かれていた。南京と言え「大虐殺」。だが、私がこの古都でつらい目にあつたことは、そんなにはなかつた。大学の仲間がかばつてくれたからだ。街の人も優しくかつた。留学当初はからかわれて、買い物に行つても売ってもらえないことがあつた。トマトと卵を買

先生方や同学たちが留学生楼の門の外まで見送ってくれた。恩師の一人に「どうお礼をしたらよいかわかりません」と伝えると、「あなたの後から来る人に。」と言われた。教員になろう、そして漢文をライフワークにしようと思つた。

帰国後、静岡県の教員採用試験を受験。なんとか高校の国語の教員になつた。静高出身で漢文が専門となると、「ああ、小倉勇三先生の影響ですか」とよく言われた。しかし、残念ながら私の入学時、先生はすでに転勤されていた。だが偶然にも、勇三先生と私の父は、他校の職員室で机を並べた仲だった。そんな縁で先生は私の教員採用時に、ご著書「漢文の授業」を贈ってくださった。以来、教員生活13年、その後、文部科学省に入省して15年、「漢文の授業」とはいつも一緒だった。「教えるのではなく一緒に読む」「理屈よりも達成感」「自分でもできるんだ、が大事」。綺麗星のような言葉たちから勇気を得て、どうにか生きてきた。「機会が与えられたら、とりあえず、やる。」が信条だ。

を果たされた方だ。教授との対面はシンポジウム初日に実現した。広大なキャンパス内で迷子になり、定刻になつても会場に辿り着けず途方に暮れていた私に声をかけてくださったのがマーヒル教授その人だった。「私も行きますよ。ほら、そこ。」

これをきっかけに言葉を交わすようになる。「アラブ世界は核の恐ろしさを知らずに核を広めようとしている」「だからこそ、子どもたちに被爆の惨状を伝えたい」。その思いで翻訳プロジェクトを開始されたという。教授の教え子の日本語学科の学生は、学内選考を経て1年間日本に留学する。放課後、学生たちが国民食「コシヤリ」の店に誘ってくれた。スマホを操る、至極普通の若者という印象。彼らの中には日本留学が決まっている者もいた。翌年、留学中の学生数名と富士山を見に行つた。日本で一番驚いたことを聞くと、「心の自由」という答えが。そうか、日本にはそれがあつたのだ。

兄さんは慌てて私のビニール袋とポケットにトマトと卵を詰め込んでくれた。隣のおじさんは牛肉麵をおごってくれた。それ以来、市場の常連になつた。こんな具合で、日中関係がギクシャクしても平穏な毎日を送っていた。帰国時

2020年、エジプトのカイロ大学で「非欧米社会における日本語・日本文化シンポジウム」が開催された際も参加を即決。カイロ大学にはお目にかかりたい方がいた。文学部日本語学科のマーヒル・エルシリビーニ教授だ。広島大学に留学・赴任し、7年かけて「はだしのゲン」の完訳・出版



カイロ大学学生と

先日、勤務先の広報活動の一環として、修学旅行で文科省を訪れた広島の中学生と「教科書検定制度」や「世界情勢」について意見交換していたら、その時、こう言われた。

「大人って、もっと賢いと思っ  
ていました。」

「大人って」と言われ、当事者意識がなかった自分に気づく。そうでしょう。だから、あなたたちに伝えたい。そして、一緒に考えたい。本当の賢さは、「潔さ」の真逆にあると思うのですが、どうでしょう。中学生の答えは、「潔い人って、本当はヤバイ人かも。」



文科省の広報活動

本当のことは多分、人によって違う。激戦地から生還した祖父が言ったことがある。「本当のことは言わない。言えないんだ。」でも、おじいちゃん、今の日本は言っていないんだよ。だから、言います。「正義の戦争なんてありません」「潔い戦争より、ややこしい平和」です。

第31回  
たかが同窓会、  
されど同窓会

71期 浦田 彰

卒寿の覚悟

この連載エッセーはこの回を最終回といたします。

この欄でこれまで同窓会について、私なりのテーマや話題を取り上げてきましたが、卒寿を迎えた今、心身ともに衰えを感じて、同窓生や在校生への取材もままなりません。また、関係資料の読み込みなど不本意な取材が重なってしまい、申し訳なく思っています。それに、ひとりの筆者が長期間この貴重な誌面を独占しているのはよくありません。多くの会員が参加してこそその同窓会報です。

私はこの欄で、幾つかの提案や呼びかけをしてきました。

例えば「同業種交流会」。ご承知のように、関東同窓会では年に二度「異業種交流会」を開催しています。さまざまな仕事の同窓生が業種を超えて語り合い情報を交換し合う、同窓会ならではの集いです。そこで、私は異業種交流会があれば同業種交流会があってもいいのでは、という提案です。

先行する埼玉県立浦和高校の例を挙げてみました。同業者の集まりであれば自社の秘密情報など難しい問題があるでしょうが、仕

事についてのノウハウや人間関係の悩みについて忌憚なく論じ合うのも同窓会らしい活動です(96号)。

「幹事」という仕事をやってみたらどうでしょう、という提案です(85号)。ある出版社の友人がこんなことを言いました。「仕事柄、お偉い作家の先生方の会合を主催する。幹事役たる当方は末席だ。でも、黙っていても先生たちの名論卓説が耳に入る。得難い情報を得られる」。幹事は苦勞の多い仕事です。自ら望んだわけではないボランティアですが、同じ思いで集まった集団であっても、その意思をまとめるのは難しいものです。しかし得難い役得はある

静岡の母校の一角に同窓会館があります。その一室に静中・静高150年を語る資料コーナーがあり、そこに寄贈された同窓生の刊行物が数多く所蔵されています。山川静夫さん三木卓さんなどの作品は勿論、一般の同窓生から寄せられた私家版の文集・詩集・エッセー・回想録などなど。なんと多彩な文才の同窓生でしょう。か。もし、あなたに世に出したいと印刷・製本した作品があるなら、ぜひ、一部を同窓会の事務局に贈ってください。たとえ、書店に並ばなくても、あなたの生き証しとなるでしょう(95号)。

文化活動としての同窓会のためこの会報を利用してほしい。同窓生の消息、同期会の開催、母校の今昔、珍しい静岡情報などな

ど、肩を寄せ合い語り合う気分です。寄稿して欲しい、という呼びかけです(92号)。

こうした提案や呼びかけは、〈たかが同窓会〉を、〈されど同窓会〉に変える杖の一振りだとお考えください。

これまで15年間この欄を続けられたのも、月に一度だけ会う仲間、同期生のお陰です。30年来、飲んで語り合うだけの付き合い、静岡在学中はほとんど交流なし、同窓会が縁となつての仲間です。揃って今年卒寿を迎えます。毎回、人生経験豊かな彼らの体験や知見が頼りの連載でした。会えば談論風発、巷の噂話や昔の思い出、ときに人生観から世界観さらには死生観に及ぶ話柄で盛り上がり。毎回、伊藤君のギターによる校歌と逍遙歌でお開き。集まり始めてからコロナ禍も何のその、延べ350回にもなります。

そんな仲間の名前を挙げれば、石垣新一郎、伊藤勝、遠藤吉隆、栗田甲子男、後藤弘枝、富野壽、長倉眞一。それに、一足先に彼岸に旅立った篠原直、梅原孝允、海野幸雄、酒井力、前田利彦、望月祐言。

年を考えれば、先細りになるのは分かっていますが、近頃の集まりは貝原益軒の養生訓「余日を樂しみ 怒りなく 欲少なくして 残軀を養うべし」の心境です。年を重ねれば重ねるほど同年配の仲間がありがたさを痛感します。同窓会はその良き仲立ちとなるでしょう。

究極の同窓会を紹介しました(78号)。

40年ほどムカシ、三日と空けずに通っていた職場近くの或るバー、そこに毎夜訪れる流しのギターとアコーディオンの二人、もと復員軍人とか。二人の間わず語りの戦場体験によれば、陸軍二等兵として、二人は太平洋戦争最大の激戦地ペリリュー島の生き残り。火炎放射器で焼かれ、機関銃で薙ぎ倒され、飢えに晒され、守備隊1万は全滅、生き残ったのは、わずか30人。復員した30人は戦友会をつくった。やがて30人が20人になり10人となり2人となつた。2人の戦友会。…十数年後、私はギターと再会、彼は語った。アコが病に倒れた。だが相棒を見捨てるわけにはゆかない。我が家に引き取った。二人はどこまでも戦友なのです。

養老孟司さんの言葉です。「むかし修道院では、朝の挨拶をラテン語で〈Memento Mori〉(死を想え)、返す言葉は〈Carpe Diem〉(その日を善く生きよ)」。死を想うからこそ、今の時を善く生きよ、ということでしょう。善く生きるため(覚悟)をもって 卒寿を生きてゆきます。

おわり

### 震災復興支援の15年 静高仲間の協力に感謝 将来の災害に経験の活用も意識

92期 寺井良夫

2011年3月11日から15年という月日が過ぎました。私は盛岡を拠点にSAVE IWATEという市民団体を立ち上げ、震災の翌日からこの15年間ほぼ休みなく支援活動を行ってきました。団体の活動は多くの方々からのサポートで成り立っています。なかでも静高のOB・OGの皆さんからは本当に多くの助けをもらいました。

炊き出しに静岡おでんと「富士」の焼きそばを届ける、夏みかんや衣料品・自転車などの生活用品、事業再開用の保冷車や事務用品器を運ぶ、SAVE IWATEが発行する三陸復興カレンダーを購入・販売し海外向けに翻訳する被災者の方々が手作りした復興ぞうきんや和ぐるみを静岡で販売する、漫画家を引き連れて被災地を慰問する、被災地応援ツアーを組んでボランティア活動をすすめる―数えきれないほどの支援を静岡の仲間が行ってくれました。

私の15年間のうち、初めの5年は仕事と支援活動の掛け持ちでしたが、その後の10年は支援活動に専念しています。これだけ長く活動を持続することができたのは助けてくれる仲間がいた

からにはかなりません。高校時代の仲間達は特に心強いです。災害支援は平時の活動とは異なり、定型化された活動ではなく試行錯誤の連続となります。難しいことも多く、トラブルも起こりやすいです。そうした時に心が知れている仲間は一番頼りになります。いつ終われるかわからない活動を、とことん応援して

くれます。こんなに助かることはありません。これまでサポートしてきてくれた皆さんにこの場を借りて改めて感謝します。本当にありがたうございました。



被災地に落实した和ぐるみの収集から始めたプロジェクトは、お菓子やかごの製造へと発展した。集めたぐるみを確認する筆者（2014年）

東日本大震災からの支援活動が続けるなかでたくさんの方の経験を積み重ねてきました。その経験を他の地域の方々や次の若い世代に伝えることも私どもの大きな役割と考えています。大震災以降も我が国では毎年のように大きな災害が起きています。熊本地震（2016年）、岩手県岩泉町での台風10号豪雨（2016年）、

九州北部豪雨（2017年）、西日本豪雨（2018年）、北海道胆振東部地震（2018年）、房総半島台風（2019年）、そして近年では能登半島地震（2024年）。恩返しをしたいという三陸の方々の思いも受けながら、私もではこうした被災地を訪れて支援を行ってきました。

いま我が国では南海トラフ巨大地震が予測されています。静岡でも大きな被害が発生することが心配されます。万が一の時には静岡の仲間達のネットワークが役に立つはずですが、私どもの経験とその備えに生かすことができようになりたいと考えています。

◆◆◆

最後に少し宣伝です。SAVE IWATEでは毎年秋に鎌倉の建長寺において岩手郷土芸能祭を開催しています。岩手で盛んに行われる郷土芸能の神楽を首都圏のみなさんに観ていただき、岩手の復興支援につなげようというものです。建長寺の龍王殿の中にヒノキの部材を運び入れ組み上げた特設の舞台の上で迫力ある神楽が演じられます。境内では岩手の物産販売も行います。かなりの

の労力を要するイベントですが、静岡の仲間達が多数参加して協力してくれるのでとても助かっています。今年は11月14日（土）、15日（日）の開催でユネスコ無形文化遺産に登録されている早池峰大償神楽が出演します。魂が震えてくるような素晴らしい舞いだと思います。ぜひ多くの方にご覧いただきたいと思えます。

### 第78回江の島会 趣向を変え、 卓話を落語に

82期 富坂修

去る10月19日（日）第78回江の島会が開催された。場所はいつもの老舗旅館「相州恵比寿屋」で、織田校長以下44名の参加者であった。いつもと違ったのは卓話の代わりに落語をやったことだ。

山崎真紀子氏（89期）のお世話で、11代目・金原亭馬生師匠を招聘した。師匠には「抜け雀」という斬をしてもらった。江戸時代から続く江の島の恵比寿屋で、江戸時代の小田原の宿屋相模屋の5羽のすずめの斬。父親を「カゴカキ」にしてしまおうと全員が理解したとは思われなかったが、江戸の粋を全員が感じたであろう。粋は斬だけにとどまらず、師匠自ら宴会の席でお酌という所作で示していただいた。



11代目・金原亭馬生師匠

静岡から参加の松澤弘恵氏（76期）は馬生師匠と旧知の中。昔、踊りを一緒に習ったとのこと。宴会は浦田彰氏（71期）の音頭で始まり、71期から136期の65歳差の杯が重ねられた。馬生師匠とお弟子さんによる謎かけもあり、

賞品を手にする幸運な人も出た。牧野尚夫氏（89期）の音頭で校歌・道遥歌を皆で熱唱し、閉会となった。この時には2人は退席していた（粋ですわねー）。

■江の島にぜひおこしください。これだけの広い世代が長年に渡り、1年に1度集う江の島会は、様々な卒業生を繋ぐ貴重な交流の場になっている。第79回は10月18日（第三日曜日）に開催される予定。多くの人の参加を希望する。詳細については、関東同窓会ホームページで案内します。



### たまごっちみたいに 言うなよ

128期 高階 隼

神奈川県横須賀市出身の私は、ご縁をいただいて静岡高校に入學しました。2009(平成21)年のことです。

入学してまず面食らったのが方言でした。「おれっち」「だに」「だら？」と普通に会話が進んでいく教室で、私は心の中で「たまごっちみたいに言うなよ」と本気で思っていました。十五歳の私にとって静岡は想像以上にアウェーで、何度も横須賀に帰りたくなったのを覚えています。

それでも、野球にはとにかく本気で向き合っていました。情熱のあまり寮の前で喧嘩や言い合いになることも日常茶飯事。当時の栗林監督や清水部長には、ご迷惑をお掛けしてばかりでしたが、その本気さが心地よく、いつの間にか私もその熱に染まっていました。甲子園出場という貴重な経験もさせてもらいましたが、何よりの財産は、あの濃い時間を一緒に過ごしたスタッフを含む仲間の存在です。

卒業アルバムに栗林監督が書いてくださった「人は財なり」という言葉。当時は「なんか深いことか書いてあるな」くらいにしか思っていないんですけど、年齢を

重ねるごとに、少しずつ理解できるようになってきた気がします。今回こうして執筆の機会をいただけたことも含め、静岡同窓生の皆様とのご縁に改めて感謝しています。まだまだ未熟な「おれっち」ですが、これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。



筆者は前から2列目の左から3番目



忘れえぬ2011年夏、第1回戦(対習志野高)

### 甲子園優勝 百年の夏を共に

岳南球友会 94期 松永 啓

百年前、甲子園夏優勝の一九二六(大正十五)年は、創部から三十年目の年で、加藤周蔵監督は就任九年目。既に夏春の甲子園も神宮大会も経験している福島鎌主将捕手(四二期)が中心の強力ナインは、連日多くのOBや明治大の岡田源三郎コーチ(早実卒・戦後野球殿堂入り)等と修練に明け暮れ、新三年生の上野精三投手(四四期)が日に日に成長する。

これは、昭和三五年の石山建一主将(七七期)二年生の石田勝広投手(七八期)等の様子とも似ている。共通点は、明治以来の歴史と伝統が、時代を超えてチームに根付いている面と、未知にチャレンジする新鋭校のような初々しさの両面が感じられることだ。

本年頭に、東京スポーツ紙の特別連載「球界の仙人、球歴七十年超、求道者」石山建一の野球一代記」が大好評となり、日経新聞「私の履歴書」に勝るとも劣らぬ石山建一レジェンドの卓越した語りが、歴史の重さと、その時代その瞬間の真剣勝負の醍醐味を伝えてくれた。

三月に、その石山さん始め、多くの野球部OB・恩師・同窓生等のご寄稿ご指導ご助力で製作した「岳南の球音(たまごっち)静岡静高野球史物語」(下段表紙)を

静岡新聞社から出版戴けた。皆様珠玉のご寄稿の内容が極めて貴重な希少図書だが、著作者としては、ジャバネットたかた等に習って、イチキユッパを下回る廉価(売上の一部は後援会を通じて野球部へ寄付する予定)とし、全国書店・アマゾン他にて取扱販売中だ。戦没された名選手等の足跡を含む永遠の岳南野球青春大河物語をどうぞご高覧賜れば幸いです。

創部百三十年、全国優勝百年の今春の練試は、三対二中京大中京との逆転勝ちから始まり、二対二日大藤沢、三対二東海大菅生、四対三武相、五対三甲府工、七対六桐光学園と、時空を超えた熱戦に、輪廻転生する若き精魂が躍動、春季公式戦で快進撃を続けている。

エース左腕の鈴木颯真は冬を越え一四〇km/hの直球と多球種が向上、右腕鈴木琥太郎のたくましい球筋と、サイドスロー水島(一般入學数系)等の実戦力も増している。名取主将二塁手のパンチ力から井村遊撃手、奥山一塁手、平野捕手、村上外野手、田原外野手、山崎外野手・甲斐三塁手等へ繋がる打線はシャープで力強く、ひとたび点火すれば、巧打豪打を連ねて塁下随一以上の迫力だが、聖隷クリストファーの高部投手等超一流の球に打ち勝つため、接戦で点を取る攻撃を様々に訓練し、勝ち抜けるチーム力を養っている。

岳南球友会は、関東同窓会の出会いから応援仲間が増え深謝する。世代・期を超えた交流を岳南

野球の復活に繋げ、今夏、共に高きを仰ぎ、関東から聖地へ栄光の道(段差注意)を歩みたい。



3月に日大藤沢 G などで躍動。鈴木颯・鈴木琥・平野・村上



Amazon・静岡新聞 SBS ショッピング他全国書店で取扱中

# 鈴 与 株 式 会 社

代表取締役会長 鈴木 与 平 (76期)

代表取締役社長 鈴木 健一郎 (110期)

〒424-8703 静岡市清水区入船町11-1  
TEL 054 (354) 3015 (秘書室)

京浜支店 〒140-0013 東京都品川区南大井6-22-7  
TEL 03 (6404) 2100

## 杓谷技研の書籍



## 杓谷技研

Institute of Advanced Marketing Technologies

しやくや たくみ

杓谷 匠 (119期)

株式会社杓谷技術研究所  
東京都千代田区麹町1丁目4-4 2F  
e-mail: shakky@shakuya.jp  
公式HP: <https://www.shakuya.jp/>



建築・不動産活用などのご相談はどうぞ

## Architects Office

一級建築士事務所

石川 雅英 (94期)

Masahide Ishikawa

108-0071 東京都港区白金台3-2-16-201  
T 03 - 5422 - 6525 HP [www.rvstone.com](http://www.rvstone.com)  
[architectsoffice@cotton.ocn.ne.jp](mailto:architectsoffice@cotton.ocn.ne.jp)

伊豆の旬



[www.yanmo.co.jp](http://www.yanmo.co.jp)

小林 秀男 (97期)

<南青山> 東京都港区南青山5-5-25 T-PlaceビルB1

TEL: 03-5466-0636 (日曜日のみ休)

<丸の内> 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビルB1

TEL: 03-5224-3322 (定休日なし)

<大手町> 東京都千代田区大手町2-2-1 新大手町ビルB1

TEL: 03-3278-7272 (土日祝定休)

伊豆の旬 **やんも**

住出し厨房 **やんも**

相続税・法人税・所得税などのご相談はどうぞ!

## 鳥 巢 修 税 理 士 事 務 所

税理士 鳥 巢 修 (89期)

OSAMU TOSU

〒167-0041 東京都杉並区善福寺1-30-17

TEL 03(3396)3858 FAX 03(3396)3848

E-mail: [tosu@mtj.biglobe.ne.jp](mailto:tosu@mtj.biglobe.ne.jp)

著作権・許認可・遺言相続・船舶等のご相談はどうぞ!

## 行政書士・海事代理士山本数馬事務所

行政書士・海事代理士 山本 数馬 (103期)

〒221-0001

神奈川県横浜市神奈川区西寺尾 3-21-16

TEL & FAX: 045-633-1582

MAIL: [ym-admscr@nifty.com](mailto:ym-admscr@nifty.com)



\* 昼2時より夜11時まで診療 \*

## 医) 名泉会タカラ歯科診療所

代表 荻 科 名 雄 (87期)

東横線 中目黒下車 徒歩5分

TEL 0120-376-480

FAX 03-3710-8847

〒153-0051 目黒区上目黒2-18-13

## 広告募集

ひとコマ1万円(年間2万円・税込み)を、12月の掲載を確認後、一括で広告主様に請求書を送らせていただいております。

掲載をご希望の方は、広告画像データ(縦横比=1対2)を関東同窓会までメールでお送りください。ジャンル不問です。関東同窓会運営の為の収入源の一部として助かっております。広告の休載は、会報発行の前々月末までにご連絡ください。

## 新店舗アットワンダーJG 開店!



見るだけで楽しい120坪の大型書店  
失われていく記憶と、それを愛するすべての人に

文学/歴史/思想/哲学/映画・芸能/音楽/美術/サブカルチャー  
アニメ/ゲーム/アメモミ/古書漫画/スポーツ/ポスター/紙物他

アットワンダー本店  
地下鉄「神保町」JA1  
神田神保町2-5-4  
開拓者ビル1・2F



アットワンダーJG  
地下鉄「神保町」JA5出口出で左  
サイゼリヤ角曲がる  
神田神保町1-4-5  
日商第一ビル1F

アットワンダー本店も通常営業  
書籍 家財 雑貨等の買入れ、整理、片付けの  
ご相談はお気軽に! [wonder@atwonder.co.jp](mailto:wonder@atwonder.co.jp)  
アット@ワンダー 0120-154-727 店主: 鈴木宏 (91期)



ブックカフェ二十世紀(本店3F)にも  
ぜひお立ち寄りください。  
←イベント等詳細はホームページへ



2025年度 静中静高関東同窓会 年会費拠出者一覽 (536件) ご支援をありがとうございます!!

- 77 小沢忠樹
- 76 土佐光明
- 75 田澤義彦、本田豊
- 74 稲森慎二
- 73 新井彰、佐野旭、杉本哲
- 72 大坪信之、菊田聰裕、茂木爲男
- 71 向井久和
- 70 新井彰、磯西洋、宇田貞子、大石康博、塚本浩司、三橋寔
- 69 倉田聰、原久彌、藤田良次、山下泉
- 68 市川三世史、佐藤正二、白石通子、鈴木清、仁科俊介、平川元美、牧野甫、増井満男、望月泰弘
- 67 伊藤勝、宇井偉郎、遠藤亘紀、遠藤吉隆、下薫、諏訪逸郎、富野壽、鳥居欣一、長倉眞一、橋爪尚也、松隈道雄、村松綏啓、矢部正和、山田卓夫
- 66 近藤薫、櫻井正之、仁藤宏次、藤下嘉昭、藤野威男、山田勝
- 65 大木茂、大村春樹、加藤元彦、富田彬道、豊田智子、仲川信正、西田和子、山笠登井出宏嗣、大嶽隆司、角谷治子、佐藤薫郷、佐藤鐘司、西村泰一、野々田昶、藤原經史、三橋康信、望月保、森田史雄
- 64 安達嗣雄、大島崇志、勝亦正安、篠原興、本多幸吉、村松友規
- 63 國保能彦、坂内三容、鈴木高夫、高田忠敬、塚本平二
- 62 石橋三洋、石間啓一、石山建一、伊藤達雄、岩崎敏宏、梅屋尚子、江頭真彦、大岩蓮、勝間田正喜、栗田收司、後藤嘉代、小長井奎幸、佐藤昌男、清水雅尚、
- 59 中村邦彦、袴田共之
- 58 天草静子、石井博之、石原庸雄、石山喬、小田島鏡子、小林勝弘、小林俊、白木桃子、杉原進、長井徹、永田明司、増田勲、望月昭彦、安間孝信
- 55 井出雅子、上田尚亮、江川豪雄、小川郷太郎、小林陽三、杉本祥勝、村田吉隆、森田信男、山本勝
- 54 秋山幹男、新井妥子、池ヶ谷吉人、大石哲夫、小本哲朗、角谷勝彦、鈴木勝、鳥羽山伸夫、吉田伸一郎
- 53 嶋田政子、鈴木素明、高山貞和、仲澤幸子、英嘉明、松永旭、森下鉄夫
- 52 青木興治、青木式、飯田幹夫、池田整、伊沢佐知子、伊東惇、岩崎年史、遠藤良治、大内修、大村多聞、小野宏、金子恵子、狩野行雄、篠原温、多賀谷秀保、伊達新之輔、堀内淳司、村上和男、山口信一、八牧浩行
- 51 大石高志、小柳津敏行、久野泰可、久野淑子、富永武則、中村豊、野呂克実、長谷川博、馬場信幸、渡水実根子、生駒光博、石川直子、小澤治夫、貞弘丈佳、塩谷立、杉山篤史、杉山順一、鈴木啓俊、鈴木正利、高瀬莊一、高田理孝、成田恵理子、野口洋一、吹井承三、古谷良樹、松島勤、松永重雄、三宅幸夫、吉野文江、渡会清治
- 50 池田幸司、伊東成師、遠藤とも子、小梁吉章、杉山由紀子、高橋成彰、竹内二士夫、竹内裕子、竹田徹、富谷史子、増井喜一郎、松本隆史、三上嗣夫、望月光、山本政博
- 49 青山隆一、近藤孝邦、鈴木正俊、長島正、成岡和美、八牧暢行
- 48 石川嘉和、石渡洋行、泉洋子、坂田正治、鈴木克宏、高橋宏、坪内和人、林曉、日野晋、平岩正史、水上浩司、藁科名雄、宇佐美博高、大村康二、近藤秀樹、塩沢潤、須藤彰良、田中育恵、安本隆晴、山田裕道
- 47 北村美佐子、北村佳久、多々良勝仁、新村暢宏、平川慶子、堀弘明、山崎真紀子
- 46 秋山治彦、大村健二、栗山伸一、深沢英昭、森田悦三
- 45 青島裕之、生田英一郎、伊藤義和、岩崎哲也、宇佐美恵子、小原裕子、倉沢千明、栗山雅之、猿木信裕、鈴木忠善、遠又哲宏、土崎弘子、中村未弓、原幸彦、藤嶋善彦、村松秀明、森義己
- 44 浮田聡、大村祐生、甲斐祥子、杉山公敏、園野康祐、蓮井慶子、服部泰子
- 43 青木洋、稲葉繁、海野典夫、小澤薫、小野泰洋、川辺亮、野毛宏、野末英雄、渡辺晃一郎
- 42 荒井軍治、石井寿子、石部久雄、稲葉宏、岩崎朝一、小山田潔、亀山晴信、木村純子、木村寿克、栗原千朗、杉山輝芳、鈴木真次、谷口寛明、捶井隆、照井徹、林信夫、野中保晃、松岡幹生、松永啓、松野敦子、矢部龍太郎
- 41 85
- 40 84
- 39 83
- 38 82
- 37 81
- 36 80
- 35 79
- 34 78
- 33 85
- 32 94
- 31 93
- 30 92
- 29 91
- 28 90
- 27 89
- 26 88
- 25 87
- 24 86

112 109 107 105 104 103 102 101 100 99 98 97 96 95

- 石井克昌、太田洋行、加藤光俊、菊入弘行、菊入みゆき、島田淳、曾根正裕、永江総宣、服部智任、見原万智子、山本好久、青木伸、青木正樹、朝比奈正人、芦野光憲、伊藤寧伸、大澤理、近藤浩史、中尾安志、細澤優、山本茂未、山元一
- 内田雅彦、小笠原英弘、岡村浩志、小澤靖弘、桐ヶ谷信和、窪田誠、清水智人、杉田太志、杉本文秀、中沢京子、丹羽孝文
- 相原圭一郎、大石健二、大村慎一、小山悦伸、佐野倫、重村武、星野典子、村上孝子、室田真男、山本浩志
- 稲葉克哉、尾高泉、加藤晃史、川又竹男、榛葉靖典、鈴木麻衣子、鈴木芳信、寺尾和之、中澤美津子、山下暢久
- 五十嵐寧、久保田博昭、小西秀雄、恒光隆法、永井一清、長谷川和也、牧田秀幸、渡辺巖
- 秋田純一、穴澤敦子、梅津香織、大石智子、小川敦子、櫻井里子、白井正博、原一央、兵庫淳志、夏目幸一郎
- 佐藤敬子、佐藤友男、春日佳子、田村晋一、名波讓、林教子、前田直子、向井良、渡辺晃生
- 海野佳幸、大村卓矢、大矢かおり、日下雄一郎、鈴木恭介、本間道代、松永学、山下史記、山本数馬
- 近藤いづみ、鈴木美穂子、武部奈都美、萩原さほり
- 田中雄介、山中彰人
- 木本雅彦、小杉祥代、野田江美子
- 大滝琢磨、松永鋭太郎
- 市川徳二、加藤剛史、竹田浩

- 114 岩崎衣里子
- 119 杓谷匠
- 122 高階隼、芳賀麻衣、村越亮平

**引越したら住所変更のご連絡を!**  
 ホームページ「登録・会費・問合せ」にある住所変更フォームのほか、メール、FAXでも受け付けております。  
 メール: shizukokanto@gmail.com  
 FAX: (静中静高関東同窓会・新聞香織) 03・5217・0301

登録・会費・問合せ

新規登録・住所変更のご連絡

新規登録・住所変更連絡フォーム

関東同窓会公式ホームページの新規登録・住所変更フォームへ。または左のQRコードからフォームへ。



新規登録・住所変更フォームでは

- ・新規入会
- ・転居
- ・姓名変更
- ・夫婦連名で一通に(一件削除)
- ・訃報、退会
- ・その他不備など

様々なご連絡が可能です。「その他」欄にコメントをご入力ください。

年会費(維持費)納入件数がここ数年減少しています。また、ついお忘れの方も多いためです。物価高の折ではありますが、会の運営のためにどうぞ皆さまのお気持ちをよろしく願います。尚、会計年度は3月31日締めです。静中静高同窓会(本部は9月30日)と異なりますのでご注意ください。

◆ホームページ閲覧状況  
 2025年度下期(10月~3月)  
 訪問者数: 39,284人  
 (前回 33,857人)  
 ページ閲覧数: 267,660回  
 (前回 297,456回)  
 ◆会員現況: 3,262名(37名減)

(1) 払込票を使う  
 年会費(維持費)納入方法のご案内  
 会報と同送の「払込取扱票」にて、お近くのゆうちょ銀行ATMか窓口でお振込みください。

(2) 口座から口座へ電信送金  
 ご自身の銀行口座より左記の関東同窓会口座に直接送金。(各行各サービスにより手数料がかかる場合があります。)  
 依頼人名の画面にて、お名前その他にかならず卒業期の数字入力をお願いします。お忘れになっている方が散見されますのでご協力をお願いします。


(3) オンライン決済サービスを利用する  
 手数料が一切かからないこちらがおススメです!  
 ホームページからでもOK

★みずほ銀行  
 江戸川橋支店  
 普通 8078861

★ゆうちょ銀行  
 ○二九(ゼロニキュウ)店  
 当座 0009969

取納代行を手掛けるウエルネット(株)と提携し、関東同窓会専用の年会費決済システムを導入しています。  
 ★クレジットカード: Visa・Master・JCBほか  
 ★コンビニ決済: 手続き後5日以内に、指定のコンビニに行き、店頭で支払います。  
 (ローソン、ミニストップ、ファミリーマート、デイリーヤマザキ) ほか  
 ★ネットバンキング(ペイジー)

↑オンライン決済サービスへ





稲葉総合法律事務所  
Inaba & Partners

パートナー  
弁護士 小杉祥代 (107期)

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-7-2  
東京サンケイビル18階  
TEL :080-5966-4384 (直通) 03-6265-1895 (代表)  
FAX :03-6265-1899  
Email:sachiyo.kosugi@inaba-law.jp  
URL : https://www.inaba-law.jp/



株式会社 **ウエマツ**

代表取締役社長 福田浩志 (97期)



〒171-0052 東京都豊島区南長崎 3-34-13  
TEL. 03-3953-1101 FAX. 03-3953-0557



〒335-0034 埼玉県戸田市笹目 8-12-2  
TEL. 048-449-8777 FAX. 048-449-8733



代表 市川 徳二 (112期)



高きを仰ぎて心を繋ぐ

さあ一緒に時空を超えて  
吾等が聖地を歩みましょう

**岳南球友会**

会長：望月 一男 (70期 野球部)

HP「岳南球友会」

連絡窓口：080-5580-2958 (94期 松永)

メール：k30.ska-1213m@ezweb.ne.jp

Record  
China

相談役 主筆

**八牧 浩行**

Yamaki Hiroyuki

株式会社 Record China

東京都中野区本町3-30-4

KDX中野坂上ビル1F

090-2653-9469

hiroyuki.yamaki@gmail.com

幼児教育に新しい風を



**こぐま会**  
幼児教育実践研究所

代表取締役 久野泰可 (83期) 取締役 久野淑子 (83期)

本部 東京都渋谷区恵比寿西1-20-6 K&S恵比寿ビル7F  
TEL 03-3463-3815

Lighting for Your Safety  
**Koito**  
<https://www.koito.co.jp>

**安全を光に託して**  
人とクルマの安全は私たちの願い

本社：東京都品川区北品川5丁目1番18号 TEL:03-3443-7111  
国内工場：静岡、榛原、相良、富士川、九州  
海外工場：USA、メキシコ、ブラジル、UK、チェコ、中国、台湾、  
タイ、インド、インドネシア、マレーシア  
小糸静高会 会長 大嶽隆司(74期)